

富岡製糸場の足跡

年	出来事
1859年	横浜開港。生糸が日本最大の輸出品となる
1860年代	欧米市場で日本の生糸品質が問題視され、近代化の必要性が高まる
1870年	明治政府が官営製糸工場の建設を決定。フランス人技師ポール・ブリュナを招聘
1872年	富岡製糸場 操業開始（日本初の本格的西洋式器械製糸工場）
1870～80年代	工女教育を通じ製糸技術が全国へ普及
1893年	官営から民営へ移行（三井物産へ払い下げ）
1902年	原合名会社の経営下に入る
1939年	片倉工業の経営下に入る
1940～50年代	戦時・戦後を経て操業継続、設備の電動化が進む
1974年	年間生糸生産量 約37万kg（生産量ピーク）
1987年	操業停止（約115年の歴史に幕）
2005年	片倉工業から富岡市へ譲渡
2014年	ユネスコ世界文化遺産に登録
現在	博物館・産業遺産として保存・公開